

学 界 報 告

〔学 会 名〕

2017敦煌論壇：継承与創新一紀念段文傑先生
誕辰100周年敦煌与絲綢之路
國際學術検討会

〔参加セッション名〕

敦煌歴史文化研究

〔発表題目〕

倚坐弥勒仏の流行と則天武后
—敦煌莫高窟弥勒下生経變の出現背景

〔大会期間〕

平成29年8月22日(火)～平成29年8月26日(土)

〔場 所〕

中国・敦煌市 敦煌研究院

※記事

8月22日から8月26日までの4日間、中国・甘肅省・敦煌研究院にて、敦煌研究院主催、中国敦煌トルファン学会共催で、中国敦煌石窟保護研究基金会の後援のもと、上記学会が開催された。この度の学会は、敦煌研究院の院長を務められた段文傑氏の生誕百周年を記念した国際会議であり、とくに歴史文化研究の研究者と保存修復の研究者、約300名が一堂に会する貴重な機会となった。海外からの参加は、アメリカ、イギリス、インド、韓国、イタリア、ロシア、フランス、イラン、台湾、ノルウェー、日本で、日本からは大阪大学の谷本親伯氏と松井太氏、京都市立芸術大学の宮本道夫氏、広島大学の荒見泰史氏、横浜美術大学の濱田瑞美氏らが出席した。

会議は、全体会議のほか、三つの分科会に分かれて行われた。分科会は(1)敦煌歴史文化研究、(2)敦煌芸術伝承と創新、(3)文物遺産保護研究であり、私は第一分科会に出席した。そのうち、仏教史や仏教文化に関わる発表者と発表題目は、つぎのとおり(発表順)。

柴新江(北京大学)「玄奘東帰与敦煌莫高窟翟家窟の修建」

郭麗英(フランス国立極東学院)「談敦煌受戒儀文書和戒牒上の人師及仏菩薩師」

Giuseppe Vignato(北京大学)「亀茲石窟中の“毘連建築”」

趙声良(敦煌研究院)「敦煌隋代経變画芸術」

濱田瑞美(横浜美術大学)「關於莫高窟隋代維摩詰経變の圖像組合」

Nirmala Sharma(インド文化国際アカデミー)「武則天女皇の合法性と敦煌の大仏像」

大西磨希子(佛教学)「倚坐弥勒佛の流行と則天武后—敦煌莫高窟弥勒下生経變の出現背景」

張元林(敦煌研究院)「關於敦煌《法華経變》中“靈山会+虚空会”場景定名の再思考」

沙武田(陝西師範大学)「觀念表達 圖像記憶—敦煌石窟朝鮮半島人物形象闡釈」

簡佩琦(覺風仏教芸術センター)「敦煌金光明経變再識讀」

胡文和(四川省社会科学院文学研究所)「巴蜀漢代銅錢樹仏像源流与提花—蜀錦輸出路線新探索」

劉屹(首都師範大学)「“法滅思想”及“法滅尽経類” 仏教及其在中国流行的時代」

嚴耀中(北京師範大学)「試説隋唐以降涅槃的圖像表達」

侯冲(上海師範大学)「敦煌仏教齋意文S.2832釈讀」

楊明璋(台湾国立政治大学)「敦煌文献中の無著・世親菩薩神異伝説と神聖崇拜」

王祥偉(蘭州財経大学)「敦煌寺院經濟文書 Дх.01426+P.4906+Дх.02164綴合研究」

屈濤 (麦積山石窟芸術研究所) 「神聖与凡俗—襄陽曹家巷宋代僧人墓線刻画圖像的釈読暨内涵研究」

松井太 (大阪大学) 「榆林窟第16窟叙利亜字回鶻文題記」

白玉冬 (遼寧師範大学) 「Of.8212/76突厥魯尼文文書研究」

陳菊霞 (敦煌研究院) 「莫高窟第217窟応是劉家窟」

張小剛 (敦煌研究院) 「再論敦煌石窟中的于闐国王与皇后及公主画像」

苗利輝 (龜茲研究院) 「絲綢之路的回鶻芸術—西域・敦煌兩地回鶻壁画芸術的比較研究」

夏朗雲 (麦積山石窟芸術研究所) 「試論麦積山第4窟 (散花楼・上七仏閣) 是北周皇家洞窟」

王慧慧・劉永增 (敦煌研究院) 「皇慶寺碑原址考—兼談皇慶寺与莫高窟第61窟・第94窟之關係」

Constantino Moretti (高等研究実習院) 「中世紀仏教偽經中的修積功德・齋戒与其他救済方法」

今回の学会では、発表者の数が多く時間が押したため、質疑応答の時間がほとんどとられず、発表をめぐる議論がなかったことは残念であった。一方、今回とくに目立ったのは、壁画の図像学的研究とともに、題記に記された人名を伝世史料や墓誌などと併せ検討することにより、新たな成果を導き出した発表が相次いだ点で、今後の展開が期待された。

会期中は、段文傑氏の模写作品や遺稿などを展示した「心燈—段文傑誕辰一百周年紀念展」を見学したほか、エクスカーションでは、莫高窟 (第332窟・第45窟・第61窟・第275窟・第220窟・第103窟・第217窟)、榆林窟 (第12窟・第13窟・第14窟・第15窟・第16窟・第17窟・第19窟・第25窟・第2窟・第3窟)、鎖陽城を見学した。

(大西 磨希子)